仲西―鶴城　前半、ジャンプシュートを放つ仲西の大田千紗＝25日、豊見城市民体育館（ジャン松元撮影）

琉球コラソンU15―成田　後半、シュートを放つ琉球の古謝虎太郎＝25日、豊見城市民体育館（又吉康秀撮影）

全国準V

仲西中（女子）

コラソンU―15（男子）

ハンドボール

（豊見城市民体育館）

▽男子準決勝

琉球コラソンU―15　32（16―16　16―15）31　ＧＨＲ（群馬）

▽同決勝

成田（宮城）　38（22―18　16―16）34　琉球コラソンU―15

（成田は初優勝）

▽女子準決勝

仲西　30（17―15　13―12）27　田辺（京都）

▽同決勝

鶴城（熊本）　40（24―11　16―12）23　仲西

（鶴城は2年ぶり7度目の優勝）

焦点

九州雪辱戦　追う展開に

中盤まで粘るも届かず

沖縄開催の全国大会決勝で鶴城（熊本）との再戦を果たす―。決勝まで4試合をものにし、仲西が言い続けた目標は現実となった。九州で大敗した鶴城への雪辱戦は、3年間鍛えた足を武器に後半の中盤まで背中を追う粘りの展開に。石川奈南は「最高の舞台で戦えた。負けたけど楽しい試合だった」と語った。

仲西のバック陣を9㍍以内に入らせない、鶴城の高い守備に攻めあぐねた。それでも守備の間に攻め入り相手を寄せ付け、味方のスペースを広くしてからパスを回す展開で攻めた。広い守備で生きる得点源の石川に加えて、活躍したのは大田千紗。これまで得点に伸び悩んだが「これが最後。ミスしても前に攻める」とこの日は6得点した。

今月上旬の九州大会準決勝で春の全国中学校選手権大会覇者の鶴城に24―51で敗れて以降、守備を強化した。

仲西―鶴城　後半、得点を決めて喜ぶ仲西の（右から）大田千紗、石川奈南、下地由衣＝25日、豊見城市民体育館（又吉康秀撮影）

今大会の決勝では相手の堅守速攻に素早い戻りで応じ、1対1には西穂花のけん制と、強いコンタクトで挑んだ。「流れを持ってくる」とGK玉城双葉も好プレーを連発した。

後半中盤以降に連続失点を許したが、途中出場の3年が得点を決めるなど最後まで戦った。主将の前田愛梨は「次こそは全国優勝してほしい」と後輩に思いを託した。

（高橋夏帆）

女子準優勝の仲西＝25日、豊見城市民体育館

みんな諦めなかった

諸見里一華（3年）　みんなが最後まで諦めなかった。練習してきたことを本番で出せた。後悔はない。

後半に崩れて悔しい

下地由衣（3年）　優勝で終わりたかった。後半に崩れたのが悔しい。持ち味の堅守速攻をもっと出したかった。

全国で戦えよかった

前田愛梨（3年）　結果は悔しいけど、全国の舞台で戦えたことがよかった。練習してきたスピンシュートを決めてうれしい。

やるべきことできた

島袋蘭奈（3年）　相手エースにあまり抜かれず、自分のやるべきことをできた。後悔なく終わることができた。

チームで成長できた

比嘉優月香（3年）　九州大会で相手と対戦した時より、プレーも雰囲気もよかった。チームで成長できた。

最高の舞台で戦えた

石川奈南（3年）　沖縄という最高の舞台で、決勝までこの仲間と戦えたことがうれしい。笑顔で楽しめた。

最後に1点を決めた

篠原結花（3年）　最後までみんなで、全力でプレーできて楽しかった。積極的に1対1を仕掛け、最後に1点を決めた。

またここに戻りたい

積虹美（1年）　初めての全国大会で緊張したけど、練習でやってきたプレーを出せた。またこの舞台に戻ってきたい。

全国大会で雪辱する

西穂花（3年）　決勝まで来られると思ってなかった。よく頑張った。また全国大会で熊本代表にリベンジをしたい。

1人も欠けず戦えた

植田みう（3年）　最後まで1人も欠けず、このメンバーで戦えてよかった。さみしいけど、3年間楽しかった。

経験を生かしていく

新川杏奈（1年）　先輩たちと決勝まで一緒に戦えて楽しかった。この経験を生かして、新チームでも頑張りたい。

優秀選手にびっくり

大田千紗（3年）　優秀選手に選ばれてびっくりした。もっとロングシュートや1対1のスキルを磨き、次につなげたい。

自分も先輩のプレー

上間夏帆（1年）　負けていても誰かがプレーでチームを盛り上げていた。先輩のプレーを自分たちもできるようにしたい。

勝ち残れてうれしい

村山史花（3年）　最後の最後まで、このチームで勝ち残れたことがうれしい。受験勉強も粘り強く頑張りたい。

来年も全国大会出る

玉城双葉（2年）　悔しさはあるけど、チームの雰囲気がよくて楽しかった。来年も全国大会に出て、次は優勝したい。

ロッカールーム

徐々に切り込まれ苦杯

立ち上がりリズム良く

あと一歩が足りなかった。琉球コラソンU―15は創設から3年、全国中学校体育大会制覇のために鍛錬を続けた。

登り詰めた成田（宮城）との決勝は、焦りから攻撃で個人プレーに走り、守備もあと一歩で押し込まれた。「この舞台に立ったら絶対に優勝しようと話してきた。悔しい」。創設期メンバーの糸数陽希はつぶやいた。

立ち上がりこそ良かったが徐々に攻撃リズムが悪くなった。攻撃の要の宮里叶一が多くのシュートを決めると、司令塔の古謝虎太郎は宮里を起点にしながら他にパスを展開した。だが、相手守備の宮里への当たりが激しくなり、「シュートに持ち込みにくかった」（宮里）。古謝も「どうにかしないと」と気持ちが先走った。

琉球コラソンU15―成田　後半、シュートブロックに跳ぶ琉球の古謝虎太郎（中央右）と田港新（同左）＝25日、豊見城市民体育館（又吉康秀撮影）

「守備から速攻に持ち込もう」と糸数は考えたという。1対1で押し込む相手バック陣に糸数と田港新が持ち前の足でけん制を仕掛け、抜かれてもフォローして守った。最少失点に抑えたが、力の強い相手に切り込まれた。

創設当初、「目標は大きく」と全国出場でなく全国制覇を掲げた。「自分たちでしか歴史はつくれない」（古謝）。初出場となった今回の全中では、準決勝で優勝候補から1点差で勝利をもぎ取るなど快進撃を続けた。「最後までやりきれた」と宮里。

東江功子監督は「これからの自信につながると思う」とねぎらった。

（高橋夏帆）

男子準優勝の琉球コラソンU―15＝25日、豊見城市民体育館

連係ミスが多かった

伊藤朱生（2年）　パスミスや連係ミスが多かった。点差をつけて勝ちたかった。練習から本番のつもりで取り組みたい。

悪かったところ出た

譜久島一光（3年）　練習してきた良いところを出せたが、悪かったところも出た。練習から見直したい。

高校で全国取りたい

平田嗣侑（3年）　優勝まであと一つで負けて悔しい。沖縄の応援が力になった。この悔しさを糧に高校で全国を取りたい。

努力を今後に生かす

福里柊弥（3年）　優勝したかった。ロングシュートが決まったのは良かった。これまでの努力を今後に生かしたい。

勝てた試合に負けた

比嘉悠斗（3年）　勝てた試合に負けたことが悔しい。この悔しさを知った後輩たちに優勝してもらいたい。

強豪に勝ち油断した

津嘉山丹希（2年）　準決勝で強豪に勝って油断してしまった。自分のプレーを出せなかった。来年は全国優勝したい。

決める力が足りない

古謝虎太郎（3年）　大事なところで決める力が足りない。この悔しさをバネにして、次の全国で優勝したい。

2年生全国制覇して

糸数陽希（3年）　応援が気持ち良かった。一生に一度の舞台を楽しめた。この経験をした2年生に全国制覇してほしい。

次は全試合勝ちたい

田港新（2年）　3年生を勝たせられなかった。この悔しさを二度と味わわないように練習する。次は全試合で勝ちたい。

練習の課題が見えた

座安琉翔（3年）　仲間との練習の成果を出せた。練習の課題も見えた。これを機会にし、2年生に優勝してほしい。

3年間は楽しかった

田名佑成（3年）　大好きな仲間と準優勝できて良かった。3年間、みんなとハンドができて楽しかった。

先輩に感謝しかない

堀川海翔（2年）　先輩との最後の試合でもっと活躍したかった。先輩に感謝しかない。来年は銀色のメダルを金に変えたい。

切り替えること意識

前徳洸太（3年）　頑張ろうという時に切り替えることを意識して声かけしていた。次の全国へ向けていい状態をつくりたい。

勝ちきれずに悔しい

宮里叶一（3年）　良かったところもあるけど、勝ちきれず悔しい。もっと練習から自分たちの全力を出していきたい。

チーム全体成長した

村山由隼（2年）　春の大会よりチーム全体が成長していた。練習から全力で取り組んで来年は優勝したい。

ⓒ琉球新報　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します